

独断

注目商品

REVIEW

後付け可能で 調整の自由度の高さが魅力

植溝内土壌散布機

TJS300/DP-SG
(愛称：アミーゴ)



◆仕様・価格
薬液タンク容量：300ℓ、動力源：直流12V（トラクター電源使用）、ポンプ方式：ダイヤフラム式、吐出力：最大10ℓ/分、圧力：～0.8MPa（8kgf/cm²）、希望小売価格：70万2,000円（税込）

◆問い合わせ先
株式会社やまびこ TEL：0428-32-6181
シンジェンタ ジャパン株式会社 TEL：03-6221-3863

防除機メーカーのやまびここと農業メーカーのシンジェンタ ジャパンとのコラボレーションで新たな農業散布装置が開発された。用途は、ジャガイモの土壌病害である黒あざ病に對して、アミスター20フロアブルの希釈液を植付時植溝内土壌散布の方法で噴射することだ。ヨーロッパでは「インファロー (In-furrow)」と呼ばれ、普及している技術が両社によって国産化された。

株では萌芽した茎が壊死して欠株同然になる。生育中期では頂葉が巻き上がったリ、さらに生育が進むと正常な株より早く茎葉が黄変するとうい症状が現れる。結果、ある程度、塊茎が肥大しても小さかったり、ストロンが短くて主茎のところに塊茎が密集したうえ、変形、あるいは培土からはみ出して緑化することがある。収穫時にはクズとして選別され、収入面に響いてくる。

そんな黒あざ病だが、生産現場ではこれまで種子消毒だけで対処してきた。というよりそれしか手段がなかった。しかしながら、黒あざ病は土壌病害であり、種子消毒では万全でなかったといえる。それが原因で黒あざ病が引き起こされていた実態も少なからずあっただろう。

この問題を重く見たジャガイモの原料調達会社であるカルビーポテトは2005年ごろ、シンジェンタ ジャパンに土壌由来の黒あざ病への対処法としてインファローという技術の Syngenta 社の Amistar が使用されているとの情報を提供する。その後、シンジェンタ ジャパンで検討が始まり、公的試験研究機関での委託試験を経て、12年、アミスター20フロアブルが適用拡大でジャガイモの黒あざ病に對して植付時植溝内土壌散布（インファロー）で農業登録を取得するに至った。そして、13年のシーズン前にやまびこことシンジェンタ ジャパンが試験機を整え、それから2年間の現地試験を終えて実用化されたのが植溝内土壌散布機、TJS300/DP-SG（愛称：アミーゴ）ということになる。

この機械は、ポテトプランターの標準装備品ではない。販売会社による現地での取り付け加工は必要だが、トラクターやポテトプランターのメーカーも機種も選ばず、後付け可能な点がうれしい。ポンプと薬液タンクはトラクターのフロント部にマウントする一方、散布装置関係はマグネットノズル管と蛇腹パイプを採用したことでノズルを含めて設置位置や角度といった調整の自由度が高い。そのノズルについては、ポテトプランターの1畦ごとに前方と後方の2カ所に構える。植溝に薬液を処理する前方ノズルは噴射角が狭く、後方ノズルは覆土する左右からの合流部に噴射することから若干広くなっている。

用途はこの目的のほか、その他の植溝散布や除草剤散布が考えられる。インファローに関しては、ヨーロッパでは Amistar 以外にも登録農薬があり、ジャガイモシストセンチュウへの防除も同時に行なっている。日本でもそうした展開が待たれるところだ。

なお、このインファローをテーマにしたセミナーを2015年2月にポテカル編集部（農業技術通信社内）主催で北海道帯広市で開催する予定でいる。関心のある人は当編集部まで問い合わせを願いたい。インファローと黒あざ病については、ジャガイモ専門誌『ポテカル』No.92とNo.85の特集で詳しく紹介している。

（永井佳史）